

に於ける一個の大なる特徴たりしことは、視察者及研究者の何人も牢記するところなりしかど、三萬の大群集に於ける若干人の（或は野次馬の）此行爲は、警察官吏の心證に微かながらの暗翳を興へたりしが如し。

遮莫若し此大行列が若し東京に於て行はれたらんか、必ずやもの市街戰的夢遊者の加はるありて、衝突と亂闘と破壊の痕跡がやがて、大争議の組織を覆すに到らしものありしならん。關西に於て、神戸にして始めて此大示威行列の行はれたりと云ふを得るも不可なかるべし。

争議團參謀部員 争議團は當日、賀川豊彦、久留弘三、須々木純一、行政長藏、野倉萬治の五氏を參謀部員とする旨を發表したり。

## 十二、電機、内燃機の大騒擾

神戸三菱各工場従業者にして十日の大示威運動に加はれるもの、内燃機約三百六十、造船約四千五百、電機約百二十五、合計四千六百三十五名なりとは、三菱造船株式會社調査課の發表するところなり。大示威行列の翌十一日、内燃機罷業職工は門前附近に集合して入場せず和田宮通りを経て電機工場通用門前社有地に到り隣接電機會社職工に外界より加罷運動を試み更に間瀬工作課長の社宅を幾回と無く長蛇の陣を作つて巡り盛んに示威する所あり、一方造船部職工は午前七時十分頃より行動を

開始したり。其數約二千五百、順次に造船部鍛冶工場、修繕部各工場、主機、補機兩工場、造船部各工場を襲ひ、或は硝子を破り、鑄型を蹂躪し、役員を脅迫し、九時前後喊聲を揚げて電機裏門に殺到し同所より裏門へ通り抜けさせよと強請したるが、守備警官、守警の拒絶に會ひしため昂奮せる職工は何條黙すべき忽ち喊聲を上げ手當り次第四邊の物を捉け來り板扉を突破せんとせしも目的を達せず其間約三百名は造船所第一職工通用門を駈足にて突破し、電機通用門に向へり。

此時、電機工場の外側より猛烈に示威運動を續けたる内燃機職工の一隊は同工場の表通用門に迫り電機工に面會させよと守警其他警備の巡查と押問答し是を拒絶さるゝや、交渉委員一名の入場を申込みて許され、一委員を門内に入れたり。九時、同委員は電氣工作部委員と對談し内燃機と同一歩調を取ることを電機工作部に勧誘して其承諾を得たり。其間内燃機工全部は門前に其委員の出で來るを待てり、然るに此の時電機部の職工集團に對し「今電機部は内燃機との妥協を破つて通用門から逃げ出さんとして居る」と誤報したる者あり、豫て電機部の態度に憤慨しむたる造船部職工約二千餘名は「返すな」「叩き倒せ」と俄に表より繰り出し、三菱造船の一般通用門のべ切ありしを開き突き抜け内燃機工場を左折して右の電機工場表門に到るや、其處にありし委員を内燃機工の集團を逃げ出したる電機工と誤認し怒濤の如く押迫り其中の一二名は見境もなく投石したる爲め内燃機工も憤慨し之に酬む投げ合ふ瓦礫は兩職工團の頭上を掠め爰に同士打ち状態に陥るや双方委員は聲を囁らし辛うじて之